

羽田空港の更なる国際化について

(1) 羽田の更なる国際化の推進等（再拡張（2010年）後）

①利用者利便向上の観点から羽田と成田の役割分担の見直し

- ・成田新高速鉄道など交通アクセスの改善、内際乗り継ぎ施設の整備等による成田の利便性の向上 ⇒ 成田への国内線乗り入れ需要の高まり
- ・羽田は国内線を主とした国内・国際空港、成田は国際線を主とした国際・国内空港としていくことが、連携強化のために必要
- ・成田の国内線の需要が高まり、国内線が拡大されれば、羽田の国際線枠の増加が可能。

②需要に対応した国際線と国内線の配分

- ・北陸新幹線などの整備新幹線の整備の進捗やエアラインの動向などを踏まえ、国内線の実需要について、出来るだけ早く見極めを行い、羽田の国際線枠の拡大を図るべき。

③深夜早朝時間帯（23時～6時）及びリレー時間帯の活用

- ・昼間は、アクセス利便性を活かせるアジアの主要都市を中心に、深夜早朝は、欧米の主要都市なども含め、必要性の高い都市に幅広く国際線を就航すべき。
- ・その際、夜間については、深夜早朝時間帯に加えて、リレー時間帯をさらに拡大してより多くの国際線を就航させるべき。
- ・国際貨物便についても、旅客優先の原則に立ちリレー時間帯の活用を図るべき。

④昼間定期便のアジアの主要都市への更なる就航拡大

- ・アジアの中でも需要が多いとされているバンコクやシンガポールなどの主要都市への更なる就航拡大を進めること。

(2) 首都圏空港の容量拡大

①羽田空港の総発着枠拡大

管制方式など施設・技術等の改善

- ・発着枠40.7万回/年(*)拡大の可能性について再検証が必要。(*40.7万回/年の前提は、1滑走路時間あたりの処理量が現在に比べて3、4回少ない。)
- ・管制、機材、環境、施設等あらゆる角度から可能な限りの空港容量拡大施策を検討すべき。
- ・発着枠拡大のための飛行ルートの変更については、騒音などのデータに基づく定量的な議論を踏まえた検討が必要。

首都圏空域の再編による効率化

- ・横田空域の返還、関東空域再編、高度な管制技術等による発着枠拡大の可能性

②横田基地の軍民共用化の実現

- ・首都圏の空港機能を補完し、首都圏西部地域の航空需要に対応するため、横田基地の軍民共用化を推進
- ・合わせて、交通アクセスを充実させるための基盤整備を図るとともに、周辺のまちづくりを促進

(3) 空港アクセスの向上

- ・羽田空港、成田空港へのアクセス改善に向けた鉄道ネットワークの整備を促進
日暮里駅及び京急蒲田駅の改良
- ・関連する道路ネットワークの整備を推進
首都圏3環状道路、とりわけ首都高速中央環状品川線
国道357号 など
- ・特に、深夜早朝時間帯に対応した交通アクセスの確保